



ライフプランの重要性理解促す

自衛隊東京地方協力本部（本部長 牧野陸将補）は6月17日、練馬駐屯地において「任期制隊員ライフプラン集合教育」を実施した。

この教育は、入隊1年以上を経過した任期満了予定隊員らに對して、「明確な自己分析に基づいた自らの意思による人生設計を確立させ、職業選択・資格習得等の能力開発に関し、自助努力を促進する」ことを目的として、今年度は12回計画しており、今回は、練馬駐屯地及び三宿駐屯地所在の各部隊で勤務している21名の隊員が参加した。教育は、任期制隊員の将来の方向性の一つでもある再就職について、東京地本の援護担当者が「任期制隊員の進路」及び「ライフプランの意義」として自衛隊の人事制度について説明するとともに、「都県の雇用情勢」及び「企業の現状」について解説して、現在の雇用情勢・企業の実態を理解させた。

また、自衛隊における就職援護施策である「部内・部外技能訓練の概要」及び「自衛隊の援護組織」を紹介するとともに「予備自衛官等制度」についても紹介した。

その後、部外講師の指導により参加者がそれぞれ「個別ライフプラン」を作成して教育は終了した。

東京地本では、引き続き各部隊との連携を強化するとともに、訓練内容の充実を図り、人生設計の方向付けの機会としてライフプラン集合教育を通じて任期満了後のライフプランの重要性や自衛隊組織援助の有用性について理解を促進させたいとしている。



コロナ禍を克服しイベント開催

自衛隊東京地方協力本部立川出張所（所長 野澤一陸尉）は7月4日、ららぽーと立川立飛において感染対策を講じて広報イベントを実施した。

今回のイベント実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年から大規模な市街地広報・イベントが実施出来ない状況が続く中、地元企業及び支援部隊と感染防止対策を含む実施計画を綿密に計画し、商業施設内において初の試みとなる陸上自衛隊観測ヘリコプターOH-6（用途廃止機）を展示するとともに防災教室を実施した。

当日は、梅雨空のあいにくの天候にもかかわらず、事前の告知により多くの来場者があり、密集を避けるため事前に整理券を配布された計150組500人も希望者がヘリコプターとの記念撮影を実施するとともに、支援部隊である航空野整備隊の整備員が航空機整備の様子を演説し、来場者は普段見ることの出来ない展示を真剣に見学していた。また、親子で参加する防災教室では、クイズ形式により親子で防災について学んでもらった。

参加者からは、「こんなところでヘリコプターが見られるのは貴重な体験だった。」「自衛官から教わる防災知識は説得力があった」等の声が聞かれ、自衛隊をより身近に感じて貰うとともに地域との信頼関係を構築することができた。

立川出張所は、各種活動の制約を受けるコロナ禍においても、創意工夫し、地元と連携しながら自衛隊の魅力伝えていけるよう所員一丸となって任務に邁進していくとしている。

